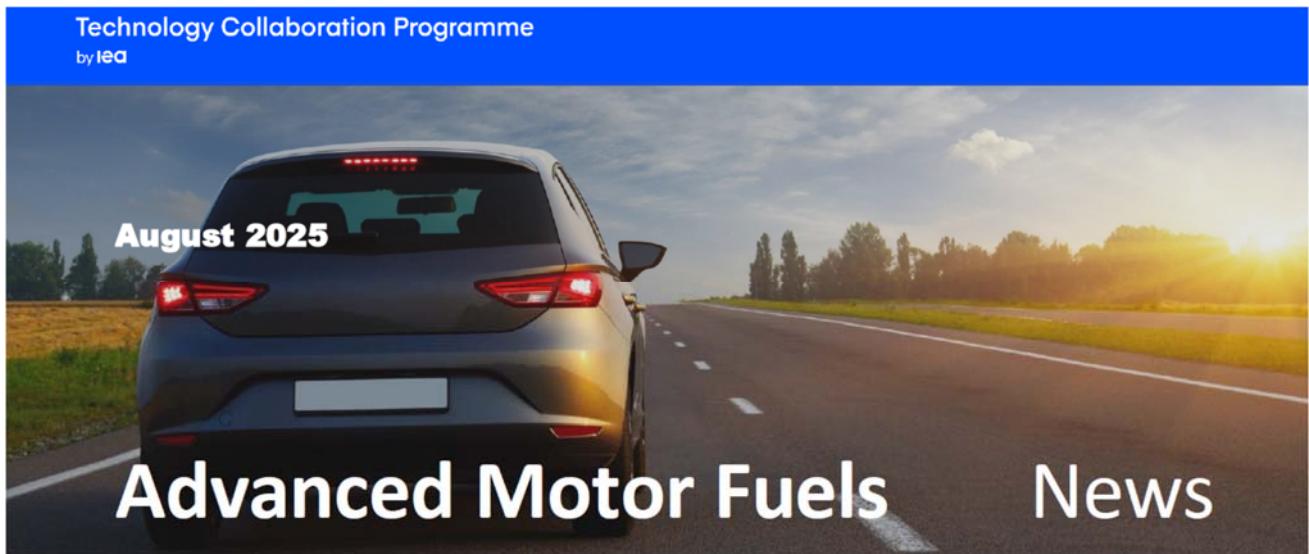


■海外情報

★IEA の自動車用先進燃料ニュースレター（2025 年 8 月号）



原文は、以下の URL を参照

<https://iea-amf.com/app/webroot/files/file/Newsletters/AMF%20Newsletter%20August%202025.pdf>

◆◆目次◆◆

※は、本ニュースレターの抄訳記事

○実証事業/プロジェクト/市場動向に関する情報

パーム油産業におけるバイオメタン生産の開発

※INERATEC 社、フランクフルトに e-Fuel 生産工場を開設

米自動車メーカーGM、V8 エンジン生産に回帰

CO₂から直接合成される液化石油ガス

UPM 社、2 つ目のバイオマス燃料精製所建設計画を断念

EIB と Eni、リボルノ製油所をバイオ精製所に転換する契約を締結

○政策/規則/指令/基準に関する情報

※米上院、カリフォルニア州の電気自動車義務化を廃止

欧州：不正なバイオディーゼルおよび原料輸入に関する懸念

日本：第7次エネルギー戦略計画

日本の GX2040 ビジョン 2

○船舶関連の注目ニュース

※中国で船舶燃料補給にグリーンアンモニアを使用

○バイオガスの注目ニュース

日本のガス業界、2050 年ネットゼロ計画で炭素回収型ガスの使用を容認

○バイオ燃料の注目ニュース

タイ、新型プレミアムバイオディーゼル「H-FAME」を発表
※インドネシア、B40 を全面導入へ
マレーシア、クアラルンプール空港でのバイオディーゼル利用を拡大
米国中西部で e-メタノール生産
ブラジル、トウモロコシ由来エタノール生産が増加

○航空関連の注目ニュース

※アマゾン貨物輸送向け SAF 燃料
コロンビアにおける SAF 燃料プラントの実現可能性調査

○水素の注目ニュース

アンドリッツ社、ドイツ向けに 100MW のグリーン水素プラントを新たに設計
JCB の水素駆動システムが欧州で全面承認を取得
インドの中核機関 SECI、グリーン水素ハブの入札を中止

○公共交通に関する注目ニュース

※ラテンアメリカの電気バス保有台数が 6,000 台に
※カリフォルニア州向けクリーンなトラックとバス
※ゼロエミッションスクール 1,000 校カリフォルニア州のバス

○IEA AMF ニュース

※ウィーンで開催された AMF 執行委員会会議
※進行中の AMF タスク
AMF 年次報告書 2024
AMF タスク 66 ウェビナーシリーズ

○刊行物

EU グリーンディール - 2024 年版
2024 年世界エネルギー・気候展望 - NDC の更新と目標ギャップの解消：1.5°C 目標達成に向けた指標
EU におけるバイオマスの供給、利用、ガバナンス、再生型エネルギー対策
クリーンエネルギー技術観測所、クリーンエネルギー技術に関する学習強化が世界のエネルギーシステムシナリオに与える影響
IEA バイオエネルギー加盟国におけるバイオエネルギーの動向：国別報告書 - 2024 年版
※エネルギー転換におけるバイオエネルギーの役割と、バイオマスの世界的な利用への影響
水素製造のためのバイオマスガス化
欧州連合温室効果ガス年次インベントリ 1990-2023 年版およびインベントリ文書 2025 年版
2050 年の持続可能なヨーロッパを想像する

IEA が北西ヨーロッパ水素モニター2025年版を公表
DBFZ が輸送分野における再生可能エネルギーの包括的なモニタリングを公表
オーストリアの温室効果ガス年次インベントリ 1990年～2023年
※ブラジルにおける電気自動車への移行が雇用に与える影響の検証
ブラジルの港湾が再生可能船舶燃料供給拠点として持つ可能性
※メキシコの気候目標に対する車両の電動化の影響
日本のエネルギー白書 2025
ERIA 年次報告書 2024
ドイツ農業技術建設評議会（KTBL）が農業機械と駆動エネルギーに関する調査結果を発表
ドイツ連邦航空局（UBA）が持続可能な航空燃料の普及促進のための政策インセンティブに関する報告書を発表
海上輸送用新燃料のライフサイクルアセスメント

◆◆実証事業/プロジェクト/市場動向に関する情報◆◆

INERATEC 社、フランクフルトに e-Fuel 生産工場を開設

2025年6月、ドイツのクリーンテック企業 INERATEC 社は、e-Fuel および e-Chemicals を生産する Power-to-Liquid プラント「ERA ONE」を正式に開設した。フランクフルト・ヘーヒストに位置するこの工場は、年間最大 2,500 トンのカーボンニュートラルな e-Fuel を生産する、ヨーロッパ最大規模のプラントである。これにより、ヨーロッパで初めて商業規模での合成燃料の供給が可能となり、EU の 2030 年および 2050 年の気候目標達成に貢献する。

新設の ERA ONE 工場は、航空や海運など、電化が困難な分野における排出量に関する大きな課題に対するソリューションを提供することを目指している。気候中立な e-Fuel は技術的に実現可能であるだけでなく、ERA ONE は市場への導入準備が整っていることを実証することを目的としている。



出典：<https://www.ineratec.de/en/news/ineratec-opens-era-one-europes-largest-e-fuel-production-plant-goes-operation-frankfurt>

◆◆政策/規則/指令/基準に関する情報◆◆

米上院、カリフォルニア州の電気自動車義務化を阻止

米上院は、2035年に新車の化石燃料車販売を禁止するカリフォルニア州の排出ガス規制を阻止した。共和党が多数を占める上院は、連邦大気浄化法に基づき州が独自の規制を制定することを認めていた特例措置を撤廃する決議を多数決で可決した。内燃機関車の2020年禁止に対する特例措置は、ジョー・バイデン前大統領政権下の2024年12月ようやく認められたものでした。同時に、上院は

トラックにおける内燃機関の割合削減と大型車両からの窒素酸化物排出量制限を目的としたカリフォルニア州の他の 2 つの規制も阻止した。米議会の第二院である下院も、電気自動車購入に対する州の補助金を廃止することを決定した。

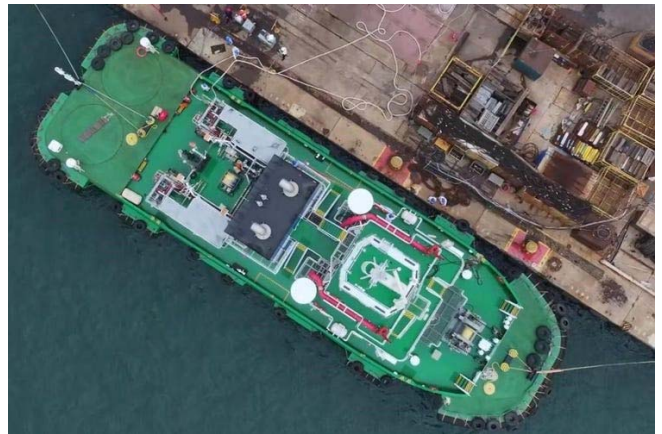
出典: <https://news.gm.com/home.detail.html/Pages/news/us/en/2025/may/0528-GM-invest-888-million-Tonawanda-Propulsion-plant.html>

◆◆船舶関連の注目ニュース◆◆

中国で船舶燃料補給にグリーンアンモニアを使用

中国で船舶燃料補給にグリーンアンモニアが使用される世界最大規模の再生可能水素プロジェクトである、内モンゴル自治区赤峰市にあるエンビジョン社の 500MW 級プラントで生産されたグリーンアンモニアが、稼働開始からわずか 2 週間後、中国の港で中型船舶の燃料補給に使用された。

この作業は、中国東北部の大連港で燃料補給（バンカリング）専門会社の中国海運と中国石油化工集団（Sinopec Suppliers）によって実施された。エンビジョン社は、グリーンアンモニアを使用した「世界初」の事例だと主張している。



出典: <https://www.hydrogeninsight.com/production/worlds-first-green-ammonia-ship-refuelling-completed-using-molecules-from-giant-500mw-hydrogen-plant/2-1-1850453>

◆◆バイオ燃料の注目ニュース◆◆

インドネシア、B40 を全面導入へ

エネルギー省のエニヤ・リステアニ・デウィ氏は、パーム油由来のバイオディーゼル燃料の今年の流通量が約 120 万キロリットルに達したと述べたとロイター通信が報じた。インドネシアは、パーム油を 40%含む B40 混合燃料の義務化を 2025 年 1 月 1 日から開始する予定だったが、規制上の問題で遅れが生じ、燃料販売業者には移行期間として 2 月末まで猶予が与えられた。世界最大のパーム油生産国であるインドネシアは、2025 年のバイオディーゼル供給量を昨年の約 1300 万キロリットルから 1560 万キロリットルに増やす計画である。



出典: <https://biofuels-news.com/news/indonesia-to-fully-implement-b40-biodiesel/>

◆◆航空関連の注目ニュース◆◆

Amazon Cargo の SAF 供給

Neste は、2025 年末まで、カリフォルニア州サンフランシスコ国際空港とオンタリオ国際空港における Amazon Air の貨物輸送向けに、7,500 トンの SAF を供給する。カリフォルニア州での SAF 供給に関する今回の合意は、Neste が 2021 年にケルン・ボン空港で Amazon に SAF を供給したことから始まった、両社間のより広範な協力関係の一環である。Neste の SAF は従来のジェット燃料と混合され、両空港の Amazon Air ネットワークに供給される。サンフランシスコ空港へは既存のパイプラインインフラを通じて直接供給され、オンタリオ空港へは Neste の再生可能ディーゼル燃料を使用したトラックで SAF が輸送される。



出典：<https://www.neste.com/news/neste-extends-sustainable-aviation-fuel-saf-supply-to-ontario-international-airport-through-deal-with-amazon-air>

◆◆公共交通に関する注目ニュース◆◆

ラテンアメリカの電気バス保有台数が 6,000 台に

ラテンアメリカの電気バス保有台数は 2024 年に 6,055 台に達し、2023 年から 13% 増加した。保有台数は 2017 年の 800 台から増加しており、そのほとんどがトロリーバスである。しかし、電気バスは少数の都市に集中しており、チリのサンティアゴとコロンビアのボゴタが全体の 65% 以上を占めている。2024 年に導入された新規電気バスの 72% は、サンティアゴ (34%)、ブラジルのサンパウロ (30%)、メキシコのメキシコシティ (8%) に導入された。電気バス保有台数の約 85% は中国メーカー製で、ラテンアメリカのメーカー製は 9% でした。

出典：<https://theicct.org/publication/latin-america-ebus-market-monitor-2024-may25/>

カリフォルニア州向けクリーンなトラックとバス

カリフォルニア州向けクリーン・トラック・バス導入促進プロジェクト (HVIP) は、2023 年から 2024 年にかけてバウチャー利用件数が 177% 増加した。過去 15 年間で、HVIP は中型・大型クリーン・トラック・バス 1 万台の購入を支援するために 7 億 5,000 万ドルを提供した。発注の約 80% はカリフォルニア州の公共機関と中小企業によるものである。現在、HVIP の資金で購入された車両 6,000 台が発注され、生産中である。2024 年には、スクールバスが最も多く、次いでバン、トラックの順でした。

出典：<https://californiahvip.org/news/hvip-hits-record-growth-as-zero-emission-truck-and-bus-market-expands/>

ゼロエミッションスクール 1,000 校カリフォルニア州のバス

カリフォルニア州は、1,000 台のゼロエミッション・スクールバスと関連する充電インフラ整備のために、133 の学区に総額 5 億ドルを交付した。交付を受けた学区は、内燃機関搭載のスクールバスをゼロエミッション車に置き換えるための助成金として最大 37 万 5,000 ドル、さらにスクールバス 1 台あたり最大 9 万 5,000 ドルの助成金を受け、関連する充電インフラの購入と設置を行っています。交付を受けた学区は、新たにスクールバスを購入するごとに、古い内燃機関搭載のスクールバスを 1 台廃車にすることが義務付けられている。現在までに、カリフォルニア州は学区に対し総額 13 億ドルの補助金を提供し、2,300 台以上のゼロエミッション・スクールバスの整備を支援しており、そのうち 1,100 台は既に運用されている。

出典：<https://ww2.arb.ca.gov/news/california-awards-500-million-funding-1000-zero-emission-school-buses-0>

◆◆IEA AMF ニュース◆◆

ウィーンで開催された AMF 執行委員会会議

5 月 26 日から 28 日にかけて、AMF 加盟 14 カ国から 24 名の専門家がウィーンに集結し、第 69 回 AMF 執行委員会が開催された。

会議は、ダイヤモンド・エアクラフト社とオーストロ・エンジン社がそれぞれの格納庫で開催した、持続可能な航空燃料（SAF）に関する国際会議から始まった。会議では、政策セッション、産業・研究セッションに加え、両社の施設見学も行われた。会議のプレゼンテーション資料はこちらから (https://iea-amf.org/content/events/future_events/saf_conference) 閲覧できる。

続く 2 日間、AMF 執行委員会の代表者たちは、進行中の AMF タスクの進捗状況、新たなタスク（代替船舶燃料に関する取り組みなど）のアイデアについて議論し、輸送分野における水素利用の最終用途に関する新たなタスクを開始した。また、AMF と持続可能な燃焼 TCP の共同タスクである排気後処理システムに関するタスクについては、オーストリアの LEC 社のラミン・メラビアン氏が新たなタスクマネージャーに任命された。



進行中の AMF タスク

現在進行中の AMF プロジェクト一覧は以下のとおりです。

- 輸送分野における水素利用の最終用途に関する側面
- 排気後処理システム（EATS）
- タスク 66：SAF 研究の最新動向
- タスク 65：非道路移動機械向けパワートレインオプション
- タスク 28：情報サービスおよび AMF ウェブサイト

◆◆刊行物◆◆

エネルギー転換におけるバイオエネルギーの役割と、バイオマスの世界的な利用への影響
IEA バイオエネルギーに関わる専門家によるこの解説では、IEA の「2050 年までのネットゼロ排出ロードマップ」におけるバイオエネルギーの量、関連するバイオマスの調達方法、様々な分野におけるバイオマスの具体的な役割、そして生物由来炭素管理の重要性について考察している。

出典：https://www.ieabioenergy.com/wp-content/uploads/2025/01/Commentary_RoleBioenergy_Dec2024.pdf

ブラジルにおける電気自動車への移行が雇用に与える影響の検証

本報告書は、ブラジルの道路車両をバッテリー式電気自動車（EV）に移行させることで、車両組立とバッテリー製造における新たな国内産業の発展がもたらす影響を検証するものである。研究者らは、EV 生産による雇用創出と所得増加の可能性を評価した。彼らは、2050 年までのブラジルの国内車両構成の変化について、EV の普及が大幅に進むシナリオと、内燃機関車（ICE）が販売を支配し続けるベースラインシナリオの 2 つを作成した。その結果、EV 移行シナリオでは、2050 年までにベースラインシナリオの 2 倍以上の雇用が創出されることが示された。雇用創出の可能性は、EV 販売の増加と自動車用バッテリーの国内生産拡大に伴う総需要の増加によるものである。

出典：<https://theicct.org/publication/the-transition-to-electric-vehicles-in-brazils-automotive-industry-and-its-effects-on-jobs-and-income-june25/>

メキシコの気候目標に対する車両の電動化の影響

メキシコは、2030 年までに新型小型商用車（LDV）販売台数の 50% をゼロエミッション車にするという目標を掲げているが、この目標は現在の CO₂ 排出基準とは整合していない。研究者らは、メキシコが 2030 年までに電動化目標を達成する上で役立つ可能性のある CO₂ 排出基準の厳格化レベルを特定するため、代替政策シナリオをモデル化した。その結果、EV 販売目標を達成するには、新型 LDV の車両平均 CO₂ 排出量（g-CO₂/km）を 2016 年比で 50%～70% 削減する必要があることが分かった。

出典：<https://theicct.org/publication/co2-emission-standards-to-achieve-mexicos-2030-electrification-target-for-ldvs-jan25/>